

# 東尋坊再整備基本計画

令和2年7月

福井県坂井市

## 計画の目的

年間 130 万人を超える観光客が訪れる東尋坊は、福井県内で最大の観光地であると同時に、北陸を代表する景勝地となっています。数年後に控える北陸新幹線福井・敦賀延伸開業や中部縦貫自動車道の全線開通、大阪関西万国博覧会の開催など、東尋坊の果たす役割はこれまで以上に重要となるに違いありません。今まで以上の交流人口や関係人口の増加を通じて、地域経済の好循環の拡大を図り、さらには来訪者の滞在性や回遊性などの満足度向上の実現のため、ここに再整備基本計画を策定します。

この基本計画は今後の計画・設計・施工・管理運営の各フェーズにおいて、立ち帰るべき規範になる考え方をまとめたものです。基本計画を常に参照しながら、関係者が一丸となって新しい東尋坊をつくり出すことを期待します。

## 場所の説明

本計画の対象地は、越前加賀海岸国定公園内特別保護地区および第 2 種特別地域内に位置しており、福井県坂井市三国町安島地係他の約 17ha を計画区域としています。この一帯は、輝石安山岩の柱状節理による、日本海に面した険しい岩壁が続く特徴的な景観を有しており、一千万年以上前の新生代第三紀中新世に起こった火山活動によるマグマが冷えてできた火山岩が、浸食されたものとされています。この柱状節理の規模の大きさが地質学的に極めて貴重であるとされ、一部は名勝天然記念物「東尋坊」に指定されています。

## 上位計画と整合

坂井市総合計画で定められている通り、住民と行政の協働によるまちづくりをサポートするような体制づくりを目指すとともに、同計画で定められた美しい景観資産の活用を実施します。さらに坂井市まち・ひと・しごと創生総合戦略で定められた雇用の創出や新しいひとの流れなど、坂井市の現状に即した計画づくりを行います。

地域資源の「魅せ方」や「楽しみ方」については、坂井市観光ビジョン戦略基本計画の方針に整合させるなど、関連する上位計画との整合を図ります。

## 計画の考え方

この基本計画は、全体コンセプト、地域資源、基本戦略、デザイン手法の 4 つのレイヤーで構成されています。環境共生を全体のコンセプトとし、歴史や文化、地質や季節ごとの魅力など東尋坊が有する地域資源をベースとしながら、滞在時間の延長や持続的なまちづくりなどの 7 つの基本戦略を設定しています。基本戦略の実現にあたっては、ビジターセンター、交通、駐車場、散策路、商店街、宿泊施設、アクティビティという 7 つの具体的なデザイン手法の検討により、東尋坊の魅力さをさらに引き出す方策を検討します。これら 4 つのレイヤーの組み合わせによって、東尋坊に新しい価値を創出します。(p.2「計画の概念図」参照)

### ●環境的価値の共有と発信

新しい技術や仕組みなどの導入によって、地域全体を環境保全先進地域とすべく、ハード整備からライフスタイルまで環境共生を軸とした統合的なデザインを展開します。環境共生とは、地球の限りある資源を大切にすると同時に、東尋坊が有する歴史資源としての環境を尊重することでもあります。そうした地域固有の環境的価値をうまく共有し、発信することが、東尋坊での滞在をより豊かなものとしします。

### ●地域の将来と向き合う持続的・段階的なまちづくり

きれいなビジョンだけでは、地域は変わりません。計画づくりにあたっては、地域住民や生業なりわいとの調整を行いつつ、地域や行政が抱えている社会課題の解決に向けた取り組みを行います。すべてを同時に完成させ終了、というような従来の固定的な計画づくりではなく、担い手として東尋坊まちづくり会社(仮)(以下、まちづくり会社)を立ち上げ、社会実験などを重ねながら、理想と実態のすり合わせを行い、状況に応じて選択肢を選べることで柔軟に対応ができるような計画を実施することで、短期間の整備にとどまらず、長期的かつ持続的な計画づくりとします。

●体験の多様化による滞在時間の延長

商店街の漸進的更新や新たなブランチの形成、室内外で展開するさまざまなアクティビティ、各種施設の整備によって、東尋坊での滞在時間を延長し、地域をより深く理解するきっかけを生み出します。滞在時間が延びることで、人と人との交流の機会が増加し、新たなアイデアを生み出していく循環をつくり出すことができます。

●ユニバーサルデザインのネットワーク化

高齢化および国際化を迎えた21世紀の日本社会の模範となるような新しい地域づくりを目指します。散策路などの通路をはじめとしたハード事業だけでなく、サイン計画や観光情報など、さまざまなサービスを誰もが楽しめるものとする事で、滞在体験が幾重にも折り重なった魅力的な地域づくりを進めます。

●地域をより深く理解するためのナイトタイムエコノミー<sup>1)</sup>

地域文化は、昼と夜、それぞれの側面を有しています。従来の東尋坊観光は昼のみに注目されていましたが、西側を向いた海岸線は夕日やそれ以降のコンテンツとも相性が良い特性を有しています。今後は、夕方から夜にかけての観光にも注力することで、ナイトタイムエコノミーと地域の深い理解とを両立するような地域づくりを目指します。

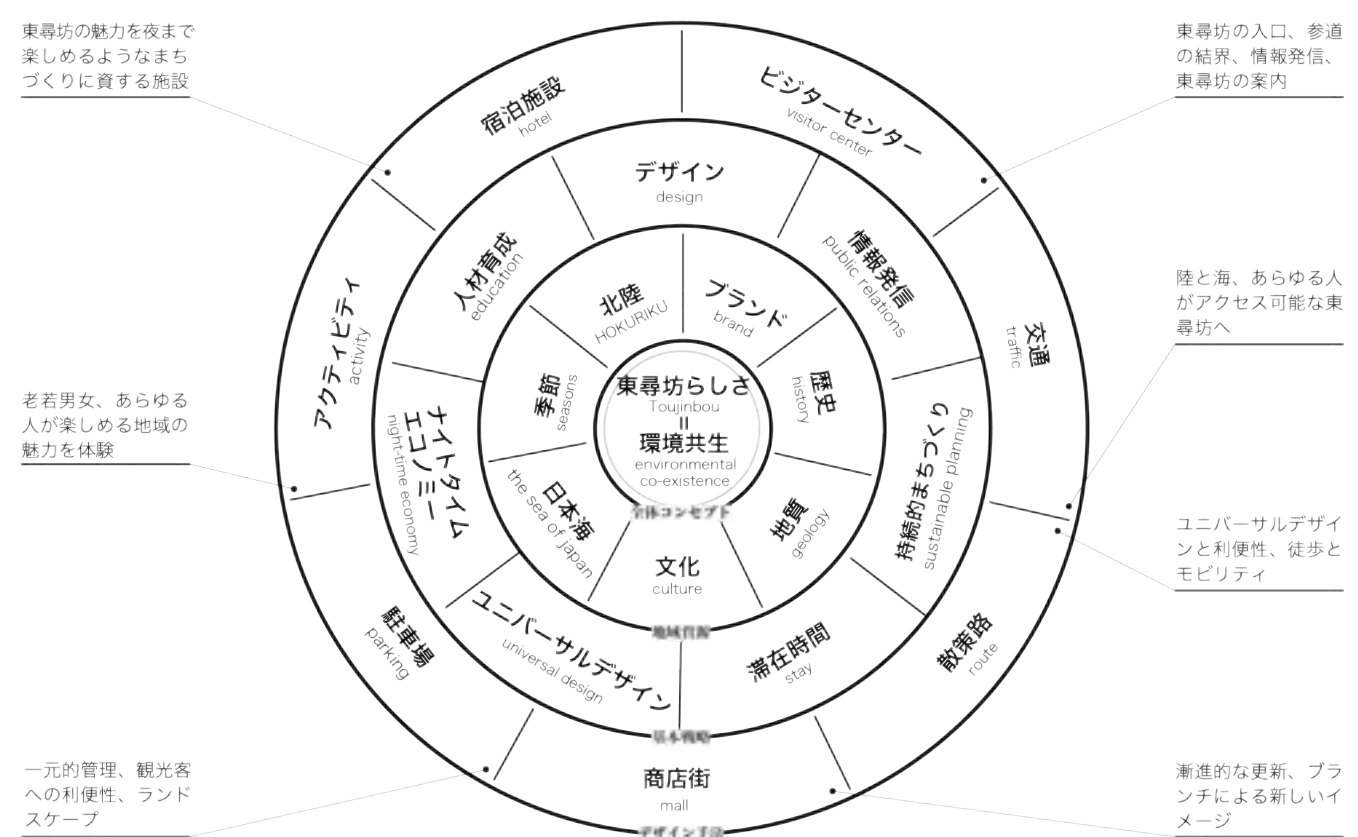
●人材育成の拠点

これからの教育は、高校や大学などの教育機関だけで行われるものではありません。観光や接客など、高度な専門性を有する技能については、理論と実践を兼ね備えた学びの機会が重要になります。世界中からさまざまな人が訪れる東尋坊は、実は人材育成にとっても最適な場所であるということが出来ます。事業性と教育機能が高度に融合した新しい拠点を設けることで、全国的な観光人材育成の中心地となり、中長期的な人的交流を促進します。

●ブリッジやブランチなど、世界レベルで訴求するデザイン

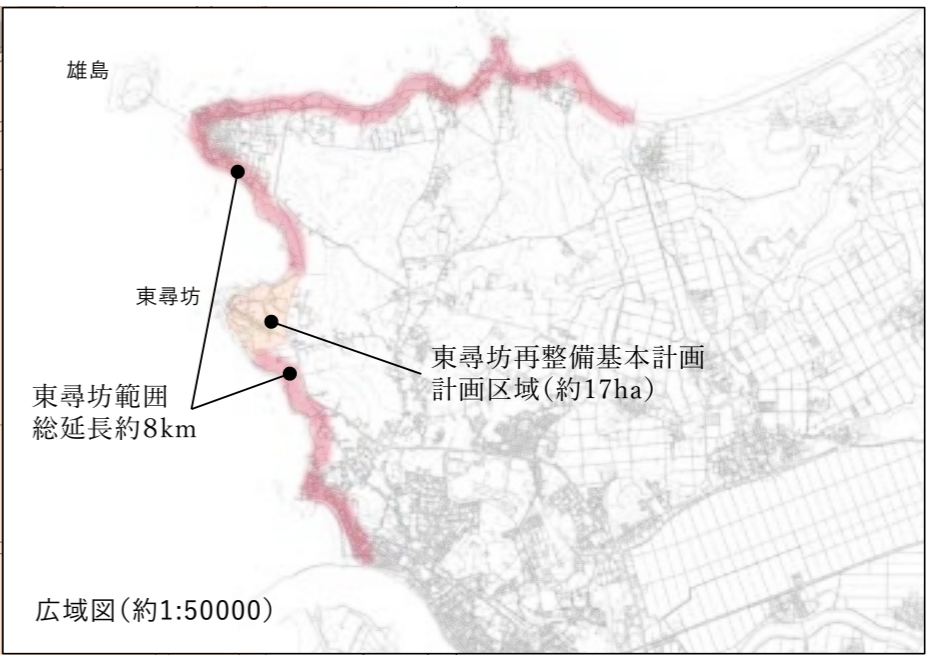
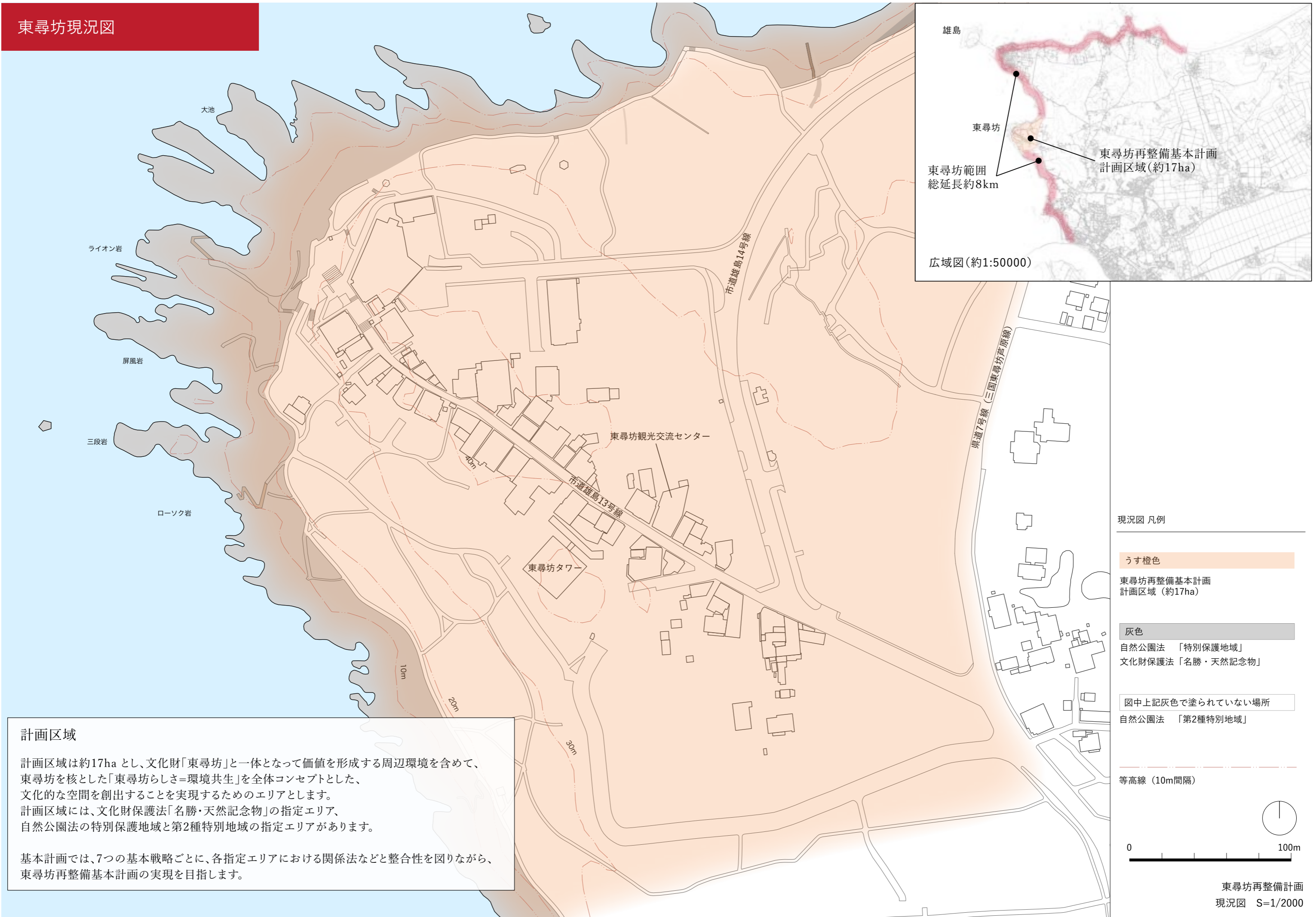
情報の個人化が進んだ現在では、マストツーリズムだけでなく、個人による情報発信が主要なメディアとなっています。また、各地の観光地の取り組みがすぐに世界に伝わる時代だからこそ、ベースとなる基盤づくりのほかに、多くの人が一度は訪れてみたいと思えるような訴求力の高い目的地をつくり出します。

計画の概念図



1) 夜間に行われるさまざまな文化・経済活動を活性化させ、かつ既存の資産を活用し、「夜間」という新たな時間市場を開拓することで事業を拡大しようとする経済概念 (出典：ナイトタイムエコノミー 推進に向けたナレッジ集 (2019)、国土交通省 観光庁)

# 東尋坊現況図



**計画区域**

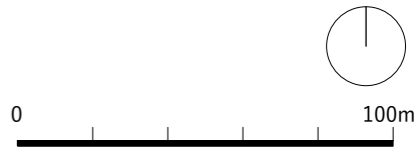
計画区域は約17haとし、文化財「東尋坊」と一体となって価値を形成する周辺環境を含めて、東尋坊を核とした「東尋坊らしさ=環境共生」を全体コンセプトとした、文化的な空間を創出することを実現するためのエリアとします。

計画区域には、文化財保護法「名勝・天然記念物」の指定エリア、自然公園法の特別保護地域と第2種特別地域の指定エリアがあります。

基本計画では、7つの基本戦略ごとに、各指定エリアにおける関係法などと整合性を図りながら、東尋坊再整備基本計画の実現を目指します。

現況図 凡例

- うす橙色  
東尋坊再整備基本計画  
計画区域(約17ha)
- 灰色  
自然公園法 「特別保護地域」  
文化財保護法 「名勝・天然記念物」
- 図中上記灰色で塗られていない場所  
自然公園法 「第2種特別地域」
- 等高線(10m間隔)

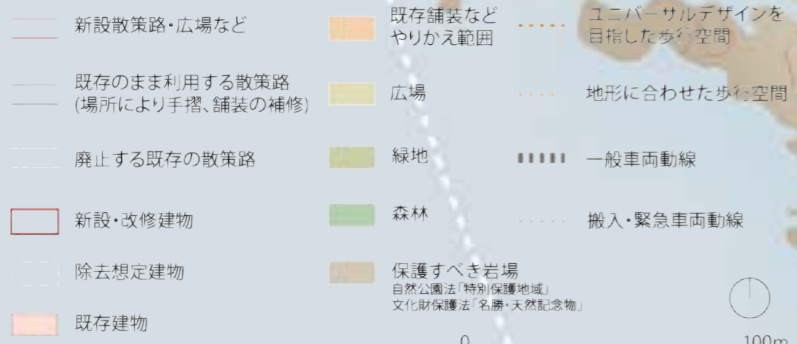


東尋坊再整備計画  
現況図 S=1/2000

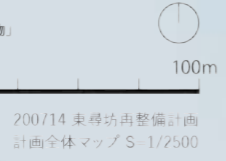
環境共生

環境共生とは、地球の限りある資源を大切にすると同時に、東尋坊が有する資源としての環境を尊重することでもあります。日本海に面して形成された天然記念物である輝石安山岩の柱状節理と緑豊かな美しい自然環境のみならず、東尋坊固有の歴史・文化環境を尊重しつつ、地域資源を活用することで東尋坊まちづくりを実施します。そうした地域固有の環境的価値をうまく共有し、発信することが、東尋坊での滞在をより豊かなものとします。

また、新しい技術や仕組みなどの導入によって、地域全体でハード整備からライフスタイルまで環境共生を軸とした統合的なデザインを展開します。



※本図は概形を示しており、形状や位置などは今後変更の可能性が有ります。  
 ※ブリッジ設置の可否について、行政協議が必要です。(詳細は散策路の項目参照。)



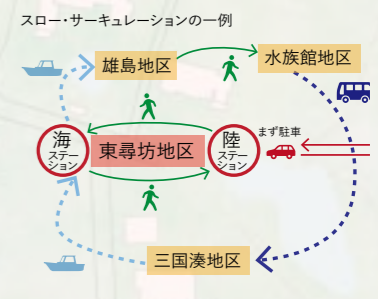
ビジターセンター

東尋坊ならではの特徴的なビジターセンターを、商店街本通り、商店街ランチ、交通ステーションの結節点に配置します。各種機能を備え、冬季や荒天時にも誘客力のある、つなぎ・つたえるビジターセンターを計画します。



交通ステーション

東尋坊周辺一帯を「三国リング」として捉え、各エリアを水運・路線バス・自動車など複数の移動手段で結び、1つの移動手段だけに限らない回遊を促します。その結節点を、陸と海各々の東尋坊交通ステーションとして整備します。



駐車場

道路を含む再整備や一体的運用により利便性を向上しつつ、季節需要に応じて使い方の変化するデザインにします。また多様な交通と連携し、広域的な駐車場ネットワークを整備します。同時に歩行者・バス・業務車両・一般車両などの動線整理をします。



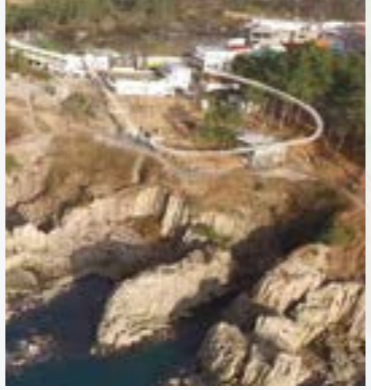
散策路

既存の遊歩道を再整備しつつ、新しい遊歩道である商店街ランチと組み合わせ、選択性のある散策路としてネットワーク化します。要所に展望歩廊や休憩所、サインを整備し、利用者に配慮したユニバーサルデザインとします。



ブリッジ(要検討)

荒々しい波による侵食、輝石安山岩独自の模様や色、切り立った柱状節理など、美しい自然環境を眺める新たなアクティビティとして、ブリッジの設置を検討します。ただし、環境負荷や文化財保護の視点から引き続き検討が必要ことから、ブリッジの設置については、有・無の2案を作成しました。



商店街(ランチ)

既存商店街の崖側2/3程度を「本通り」と捉え、修景事業や空き店舗改修・貸出事業を漸進的に実施し、既存店舗移転や新規店舗出店を促進します。その脇にも「ランチ」と名付けた新しい商店街を整備することで、回遊性が高い商店街を創出します。



アクティビティ

東尋坊が有する自然の厳しさと恵みという独自の価値を五感で享受できる新しいアクティビティの創出を想定します。これらを散策路によってつなげることで、相乗効果を高め、地域全体の体験としてより豊かな価値を創造し滞在時間の伸張を目指します。



## ビジターセンター



### 配置計画

- 来訪者の動線を整理し、東尋坊観光の体験をより豊かにするため、駐車場・商店街本通り・商店街ランチの結節点に整備する。
- 利用者の利便性を促進し、満足度向上を図るため、ビジターセンターと「陸」ステーション (p.7 参照) を一元化して新築で整備する。
- 駐車場との間に「アクセス広場」を設け、ビジターセンターへのアクセスを印象的に演出する。

### ビジターセンターの整備目標

- 商店街本通り、商店街ランチ、交通ステーションをつなぐ結節点となり、東尋坊観光の拠点施設として、来訪者の動線を効果的に誘導する役割を担う。また、通気・換気などに配慮した施設設計画とする。
- 東尋坊を眺めるだけでは分からない、歴史・地質の背景を紹介し、世界的な価値を発信する地質研究ラボを併設する。
- 東尋坊の高い集客力を活かし、坂井市・福井県の情報発信を担い、広域の観光も促進する。
- 冬季や荒天時にも高い集客力を確保し、自然を引き立たせつつ、建築物そのものも目的地となるセンターとする。
- 海外や県外からの観光客のみならず、地元県民や市民にも親しまれるセンターとする。

### 外観・内観

- 東尋坊の自然との環境共生を実現しつつ、ビジターセンターとして分かりやすいデザインとする。
- 駐車場などからの来訪者の流れを受止め、商店街に誘導する。敷地の高低差を活かして、商店街本通り、商店街ランチ、交通ステーションの結節点としての空間を提供する。

### 内観参考事例



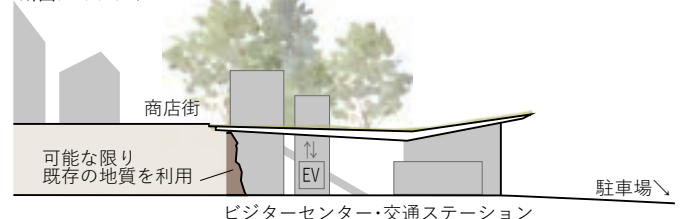
Public Library in Ceuta / Paredes Pedrosa  
© Fernando Alda

<https://www.archdaily.com/393114/public-library-in-ceuta-paredes-pedrosa>より

### 機能および規模

- ビジターセンター (1000 m<sup>2</sup>程度)
  - ・ 東尋坊紹介スペース、地質研究ラボ  
最先端技術の導入、冬季や荒天時への対応
  - ・ まちのコンシェルジュ  
各種案内、アクティビティ窓口など
  - ・ テナント  
チャレンジショップの誘致、ランチとの連携
  - ・ ホール、会議室  
修学旅行や催事の開催対応
  - ・ 荷物預所、配送窓口
  - ・ トイレ、おむつ替え室、多目的室
  - ・ 授乳室
  - ・ ゴミ箱 ・ Wi-Fi ・ AC 電源
  - ・ 事務室 ・ 倉庫
- 交通ステーション  
「陸」ステーション (200 m<sup>2</sup>程度)
  - ・ バスタクシー待合
  - ・ 広域 (坂井市・福井県) 観光情報発信スペース
  - ・ 各種交通案内  
駐車場料金收受機能
  - ・ トイレ
  - ・ ゴミ箱 ・ Wi-Fi ・ AC 電源

### 断面ダイアグラム



●**広場や建築が地域を更新する**

コロンビア第二の都市メディジンの都市再生事例。かつては、メディジン・カルテルなどの不名誉なことから世界的に名を知られていたが、2000年代の全市をあげた都市再生への取り組みは、急速な治安の改善とそれに基づく経済的活動の進展などにつながり、世界的にも類を見ないほどの成果を上げている。

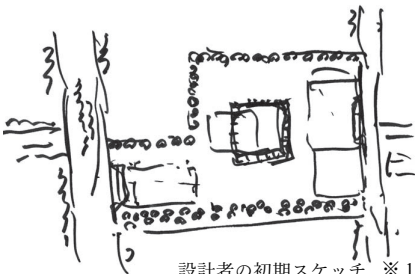


既存樹を活かした広場※1



周辺環境と広場と建築

都市再生プロジェクトの一環である「5つの公園図書館政策 (Santo Domingo, La Ladera, La Quintana, San Javier, Belen)」の1つであるベレン公園図書館を東京大学景観研究室が中心となって設計した。3つの広場と分棟形式の建築群により



設計者の初期スケッチ ※1

構成されており、周辺環境と広場、建築が一体となって固有の場をつくっている。設計初期から広場を中心に検討が重ねられた。



敷地面積：14,220 m<sup>2</sup>

用途：図書館、講堂、音楽学校、商店、日本文化サロン、地域情報室、多目的室、職業訓練室

※1

●**住民の意識の変化**

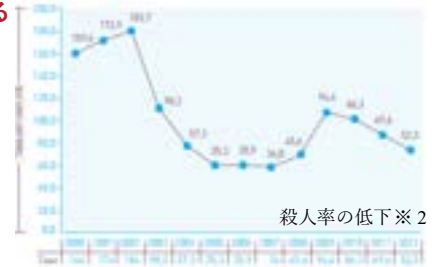
ユーザーインタビューを交えた調査によると『店主 Jordan Ortiz も「ベレン地区の変化はさまざまな要因があるだろうが、ベレン公園図書館の周りにそれらが集中し、掛け合わさっている。ベレン公園図書館は「目に見える」んだ」と述べて、社会変化は必ずしもベレン公園図書館によってもたらされたものではないが、実体を持つベレン公園図書館を介して変化

を認識しているという心理メカニズムを示唆した。』『現実の社会的変化を生む都市政策の上に、その変化を実感させ、市民に確信を与える景観があることで、社会変革が促進されたと考えられる。』さらに、『Lopez Ramirez 校長の「この図書館は punto de encuentro. だからコミュニティへの帰属意識と誇りを感じられるんです」という発言から、ベレン公園図書館を中心としたコミュニティへの誇りが生じていることも読み取れる。』(『内は※2より引用)

●**ベレン地区における**

**都市再生の効果**

- ・治安の改善
- ・殺人率の低下
- ・地価の上昇
- ・商店の増加
- ・進学率の上昇



●**ソフトとハードの連携による都市政策と地域への波及**



ベレン地区における都市再生は、教育政策や交通政策というソフトな政策と、それらにより生じた変化を実感させるベレン公園図書館というハードな整備が、同一の理念を共有して進められたことによって実現したといえる。

東尋坊プロジェクトにおいても、エリアマネジメントやアクティビティ支援などのソフトと、広場やビジターセンター、散策路などのハードが、環境共生などのコンセプトの下に一体的に進められることが、地域再生のカギを握っているといえる。



水の広場で遊ぶ子ども達



式典に集まった人々※1

【引用文献】  
 ※1：川添善行ら著『コロンビア・メディジン市におけるベレン公園図書館の建設』景観・デザイン研究講演集 2008年  
 ※2：小松崎俊作ら著『景観デザインによる社会イノベーションのメカニズム分析：コロンビア・メディジン市のベレン公園図書館と福岡市警固公園との比較』2016年

●**世界のその他の参考事例**



金沢 21世紀美術館 公式 web より

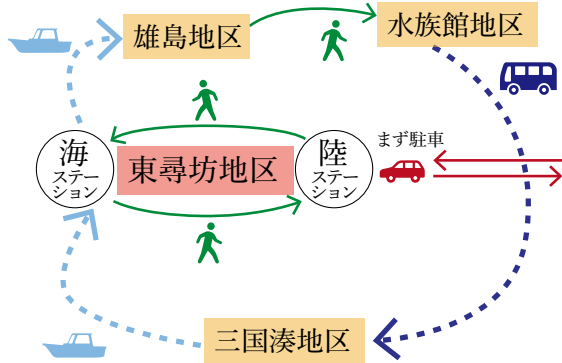


羅東文化工場 公式 web より

# 交通

## 東尋坊の内外の交通ネットワーク整備の方向性

- 東尋坊の内外において、環境負荷をかけない方法で、すべての人が使いやすい交通ネットワークを実現する。
- 多様な交通との組み合わせによる広域的な人の流れを作り出すために、ICTによる新交通システム MaaS (Mobility-as-a-Service) の概念に基づいた広域的な交通を整備する。電動モビリティやシェアサイクリング、カーシェアリング、バス、鉄道、舟運など、すべての既存・新設交通手段の利用連携の仕組みを構築する。

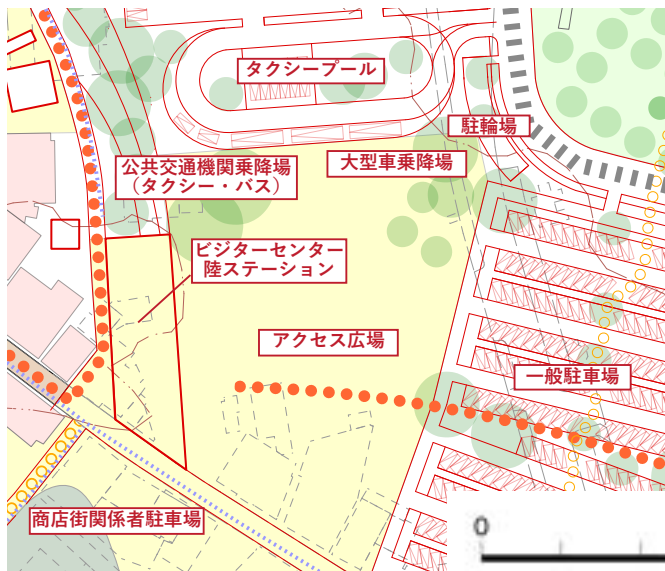


「三国リング」における広域的な人の流れのイメージ

## 交通ネットワーク整備のための施策

- 東尋坊の入口となる交通の拠点を、陸側と海側に2箇所整備し、水陸の地域交通を東尋坊エリアで結節する。
- 東尋坊と三国湊・雄島・越前松島水族館などを繋ぐ「三国リング」を複数の公共交通機関（遊覧船や路線バス、鉄道）によって結ぶことで、エリア内の周遊を促す。
- 三国リングの海側の動線として、三国湊～サンセットビーチ～東尋坊～雄島に船舶ルートを開設し、季節運行・定期運行を行う。東尋坊で他の交通手段と乗り換えられるようにすることで、広域的な周遊を促す。東尋坊の柱状節理は海から見ても楽しめるため、海路からアクセス

## 「陸」ステーション（ビジターセンター）周辺図



することは特有の観光地体験となりえる。

- その他の施策として、各交通手段を共通で使えるチケットや、駐車場利用者への公共交通機関利用料金の割引、誘客拠点施設における交通案内の充実、交通拠点（交通ステーション）の整備、シェア・オンデマンド交通手段の導入、交通手段連携システムの導入などを適宜実施する。

## 東尋坊における交通ステーションの整備

- 以上の交通ネットワークの整備の一環として、東尋坊エリアに交通の拠点を「陸」「海」の2箇所整備する。
- 東尋坊を訪れたすべての人が使いやすく分かりやすい、交通の結節点とする。
- 交通の「陸」ステーションは、新築のビジターセンターと一体化して整備し、大型バスの乗降場と公共交通機関の乗降場を新設する。
- 交通の「海」ステーションは、既存の遊覧船切符売場の建物を解体再整備し、以下の機能を導入する。

<必要となる機能の例>まちのコンシェルジュ（多言語対応）、チケット売り場、ゴミ箱、Wi-Fi、AC電源、事務室、倉庫、待合所、展望スペース

- 遊覧船乗場を東尋坊のもう一つの玄関口とするべく、「海」ステーションから崖を降り乗降場に至る動線を補修整備し、より快適に遊覧船が利用できるようにする。

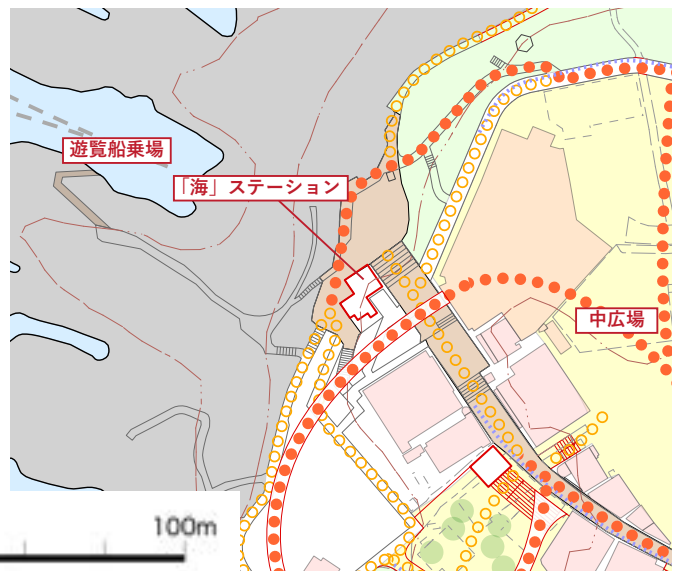


(事例) 秋田駅西口バスターミナル  
[https://www.japandesign.ne.jp/kiryama/207\\_katsushi\\_nagumo/akita-bus-terminal/](https://www.japandesign.ne.jp/kiryama/207_katsushi_nagumo/akita-bus-terminal/)



(事例) 石廊崎  
<http://mannmarukobusi.blog57.fc2.com/blog-entry-826.html>

## 「海」ステーション周辺図



# 駐車場

## 駐車場の整備目標

- 利用者がわかりやすく、使いやすい駐車場とする。
- 環境に優しく、自然と共生する駐車場とする。

## 車両動線の整理・ゾーニング

- 県道を拡幅し、市道雄島 14 号線と 13 号線の形状を変更することで車両動線の整理を図る。
- 一般車両は市道雄島 14 号線のみ通行可能とし、同 13 号線は原則として搬入用・従業員用など、業務車両のみとする。搬入のルールや時間区分などは、東尋坊まちづくり会社(仮)で検討しながら運用する。
- ビジターセンター付近に、市道雄島 14 号線から分岐する大型バス駐車場・乗降場および公共交通機関乗降場を新設。各店舗・まちづくり会社との契約による大型観光バスは、原則としてこの場所に乗降・駐車を集約する。
- 公民すべての駐車場を整理・統合し、東側に一般駐車場を設ける。一般車両用駐車場の最大駐車台数は 550 台程度とし、まちづくり会社が一体管理運営を行う。
- 南側には臨時駐車場を設け、合計 1000～1200 台程度の駐車容量を確保することでGWなどピーク時需要に対応する。商店街関係者用駐車場を設置し、関係者協議の上、商店街内部に原則駐車しないルールづくりを目指す。
- 車椅子用駐車マス、電気自動車の充電スタンドなどの必要な設備を、利用しやすい場所に適当数設ける。

- 自転車、オートバイなどの駐輪場を適宜設置する。同位置にシェアサイクル拠点の設置も検討していく。

## 駐車場デザインの方向性

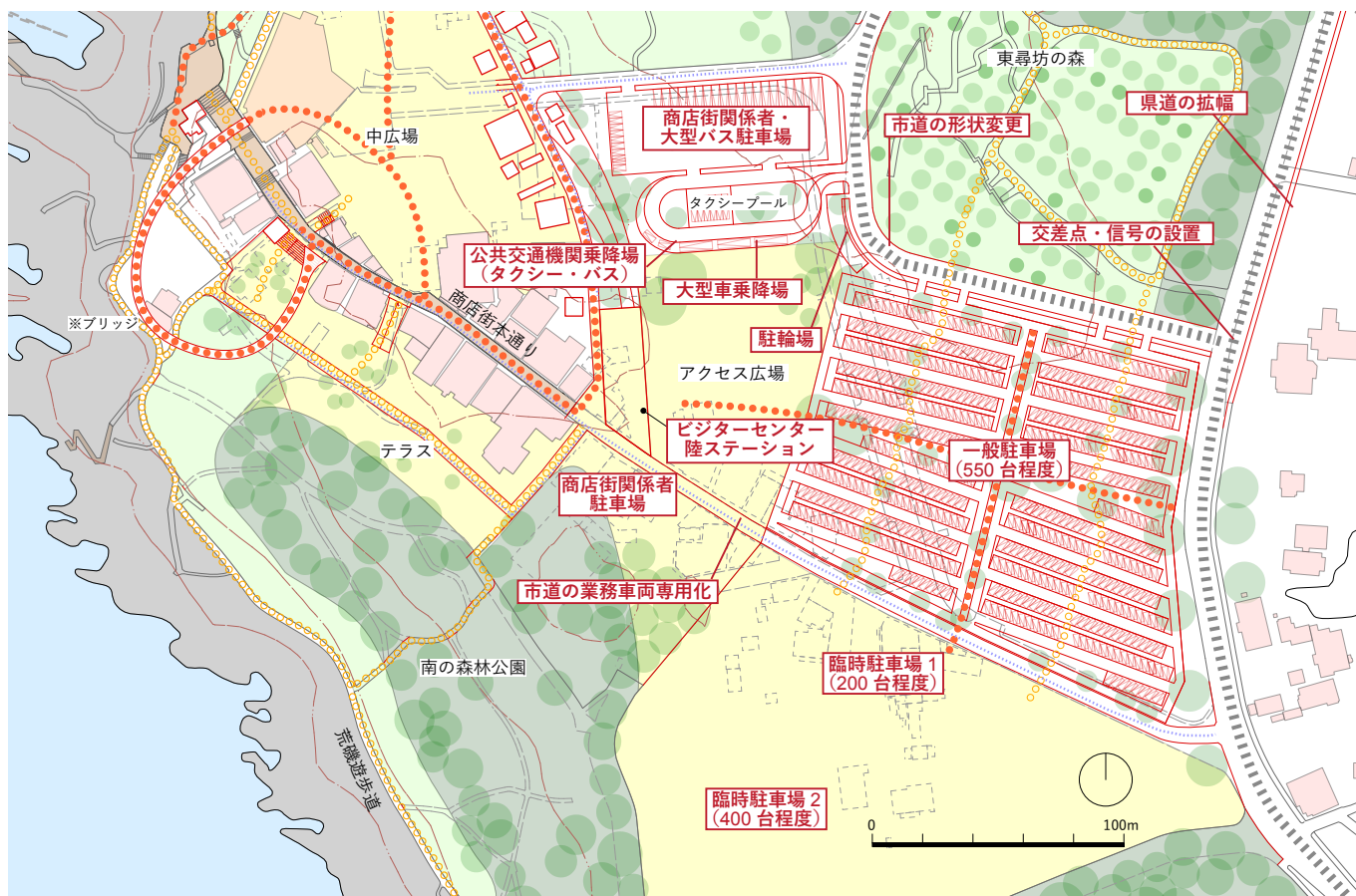
- 駐車場内の動線は、歩車分離を徹底し、まずビジターセンターに足が向くような歩行者ルートの配置・構成とする。
- 東尋坊の豊かな自然を感じられる舗装や植栽を検討し、北側の森林と共通する植栽計画とすることで、近隣の景観となじむ駐車場とする。
- 臨時駐車場のエリアは、アスファルト舗装を施さず、オフピーク時に位置を区切って多目的利用(グランピングなど)に供せるものとする。インフラ施設配置も考慮し、段階的に整備する。



(事例) ラコリーナ近江八幡の駐車場

## 駐車場管理の方向性

- 入庫待ち渋滞をつくらないように、満空表示看板の新設や入出口位置を工夫。ナンバー認識・事前精算制など、渋滞の原因とならないゲートの仕組みを導入する。
- 管理運営はまちづくり会社が担い、その収益は東尋坊全体に資するための活用資金に充てる構造とする。
- 駐車場の環境負荷を低減するため、適切な植栽計画などを実施する。



## 散策路



### 散策路の整備目標

- アクティビティなどのコンテンツ間の回遊性を高め、エコモビリティも利用して来訪者の滞在場所を増やす。
- ユニバーサルデザインを通じた歩きやすい散策路を段階的に整備し、余剰な既存遊歩道は積極的に自然に戻す。
- 東尋坊特有の景観・文化的価値に対する理解を高めるため、新たな散策路としてブリッジの設置を検討する。

### 配置・ゾーニング

- 散策路は、①既存の商店街の歩行空間を積極的に生かしつつ、②雄島への景観を取り入れた歩行空間（以下、雄島軸散策路）によって周回する散策路を全体の骨格として整備する。また、③崖に近接した場所に新たな魅力としてのブリッジの設置を検討し、実現に向けて取り組む。さらに、④荒磯遊歩道を東尋坊の歩行空間の外郭として位置付け、地形に配慮して整備する。

- 散策路の計画によって生まれる広場などは、地形や植生に配慮し、それぞれの場所の性格に合わせて計画する。

### デザインの方向性

- 主に既存の歩行空間の再整備を中心とし、それぞれの環境に応じた設えとする。また、歩きやすさ、降雨や降雪、塩害に配慮し、勾配部は特に防滑性に配慮する。新設が必要な部分は、地形や景観を損ねないように計画する。
- 雄島軸散策路やブリッジはユニバーサルデザインに重点をおき、東尋坊の魅力を多くの来訪者が体験できる計画とする。また、地形や路地性<sup>しつら</sup>を大切に散策路は、素材や形状など設えの自由度を高めて計画する。

商店街本通りの舗装イメージ



<https://travel.navitime.com/ja/area/jp/guide/NTJmat0626/>

ブリッジのイメージ



中広場のイメージ



<https://www.google.com/maps/v?hl=ja&pb=!1s0x60223f12164cc14>

散策路のイメージ



<https://travel.rakuten.co.jp/HOTEL/13583/13583.html>

### ストリートファニチャーなどの配置

- 目的に基づいたストリートファニチャーなどを配置する。既設の更新も含め、景観に配慮したデザインとする。
- cf-1. 現在地や目的地がわかる地図・サイン
- cf-2. 休憩所としてのベンチ・あずまや・自動販売機
- cf-3. 通信手段としての電話ボックス・Wi-Fiの整備
- cf-4. 衛生的な施策としてのゴミ箱や喫煙所の整備
- cf-5. 日没後も安全に歩行するための街灯の整備
- cf-6. 利用しやすいトイレの整備
- cf-7. イベント時や広告に対応するポスターボード
- cf-8. 写真スポットやモニュメントの整備
- cf-9. 東尋坊の強風を利用したアートイベント

# 散策路

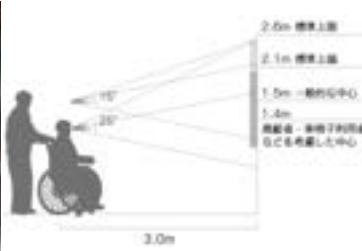
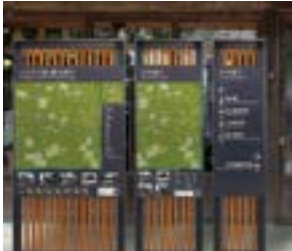
—ストリートファニチャーなどの基本的な考え方

## 設置するストリートファニチャーなどの方向性

●ネットワーク状の散策路に共通して、下記のように目的に基づいて配置し、東尋坊の景観や歴史に配慮したデザインとする。

**s-1** 現在地がわかりやすいような方策をとる。

- 東尋坊全体で共通した表記の地図・サインの配置
- 誰にでもわかるようなピクトサインを主に使用し、文字の表記は日本語・英語の2種類表記を最低限として配置
- 一部のサインは日没後も認識できるように内照式などを配置



左：小江戸川越案内板の事例 ([https://townscape.kotobuki.co.jp/news/2018/20180913\\_001465.html](https://townscape.kotobuki.co.jp/news/2018/20180913_001465.html))  
右：株式会社アートプロデュース HP より (<http://www.art-produce.co.jp/example/universal/index.html>)

**s-2** 歩行者の疲労に配慮した休憩スペースを計画する。

- ベンチ、あずまや、自動販売機の設置



左：J R 日向市駅のベンチの事例 ([http://www.m-sugi.com/18/m-sugi\\_18\\_kano.html](http://www.m-sugi.com/18/m-sugi_18_kano.html))  
右：<http://cozilin.cocolog-nifty.com/blog/2009/05/post-204c.html>

**s-3** 歩行者の通信手段を確保する。

- 電話ボックス・Wi-Fi の配置

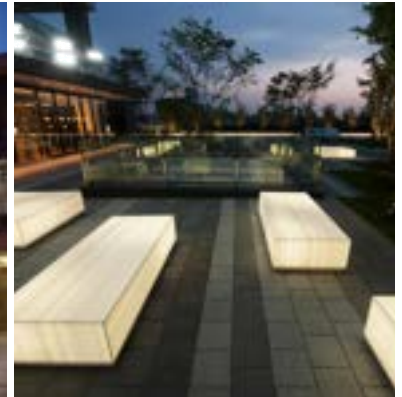
**s-4** 観光客から商店街や自然を衛生的に守る。

- ゴミ箱・喫煙所の配置



左：海外事例 (<https://www.picbear.org/media/B19A5-1AbGo>)  
右：デザイナー：Grace youngeun Lee (<https://www.coroflot.com/gr3design/waste-bin>)

**s-5** 日没以降も利用できるように計画する。→街灯の配置



左：海外事例 ([http://www.rosslovegrove.com/custom\\_type/solar-tree/](http://www.rosslovegrove.com/custom_type/solar-tree/))  
右：東京ソラマチ ([http://www.katori-ada.com/works\\_f007.html](http://www.katori-ada.com/works_f007.html))

**s-6** トイレを適宜配置する。

- 商店街エリアにおいては店舗内の客用トイレ配置を促進
- 自然エリアにおいては既存施設なども利用しながら配置



公衆トイレ「トイレの家」(設計：石井大五) (<https://www.mirainoshitenclassic.com/2017/04/6arc.html>)

**s-7** イベントの告知や広告などのポスターを計画的に配置する。

- ポスターボードを配置



東京都現代美術館の事例 (<https://twitter.com/ndccoj/status/1136882861808578561>)

## 配置イメージ

		商店街エリア			自然エリア		
		散策路		店舗	散策路		あずまや 既存トイレ 新規宿泊施設など
		「雄島軸」・周遊ルート	脇道		メインルート	脇道	
s-1	地図	適切な間隔で配置		—	適切な間隔で配置		必要に応じ設置
	サイン	適切な間隔で配置		—	適切な間隔で配置		必要に応じ設置
s-2	ベンチ	適切な間隔で配置		—	適切な間隔で配置		配置
	あずまや	数ヶ所に配置		—	数ヶ所に配置		配置
	自動販売機	適切な間隔で配置	—	—	—	—	配置
s-3	電話ボックス	適切な間隔で配置	—	—	—	適切な間隔で配置	配置
	Wi-Fi	全域に設置					
s-4	ゴミ箱	適切な間隔で配置	—	店頭や店内に設置	適切な間隔で配置	—	配置
	喫煙所	適切な間隔で配置	—	必要に応じ配置	—	—	配置
s-5	街灯	適切な間隔で配置		—	適切な間隔で配置		散策路用に配置
s-6	トイレ	—	—	順次設置を推奨	—	—	設置
s-7	ポスターボード	適切な間隔で配置	適切な間隔で配置	—	—	適切な間隔で配置	配置

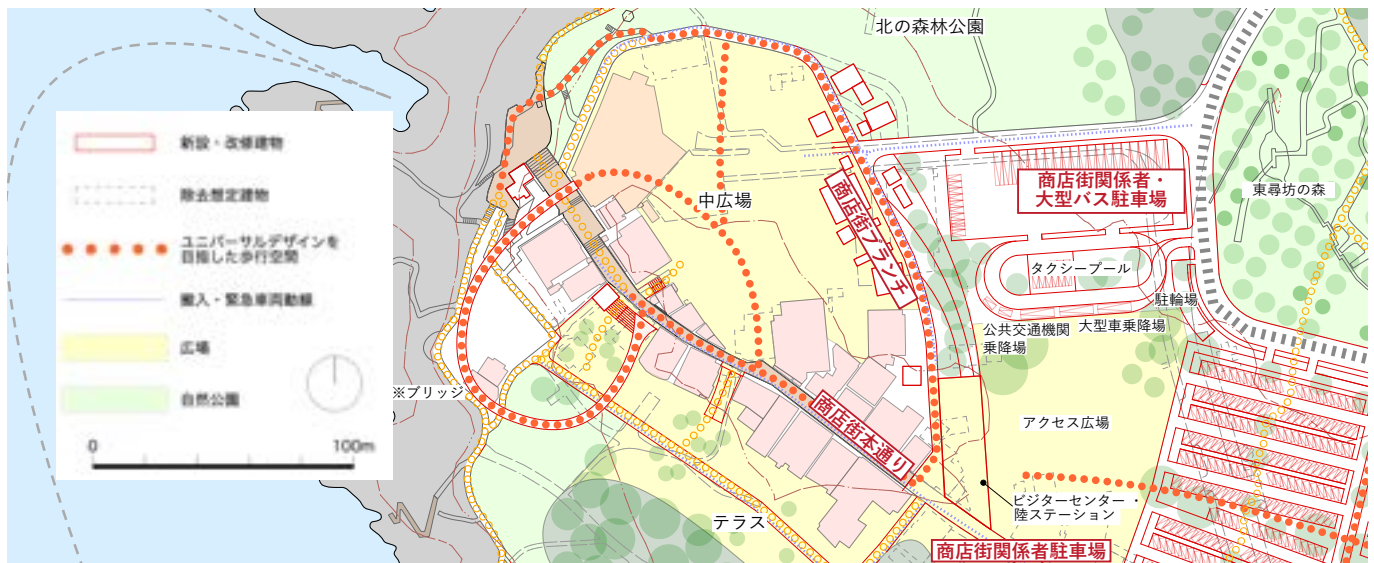
# 商店街

## 商店街の整備目標

- ① 将来にわたり環境負荷をかけない商店街をつくる。同時にデザインガイドラインを策定し、環境と共生するたたずまいの商店街となるよう整備誘導する。
- ② 直線型の商店街ではなく、広場と一体化して回遊性が高まるネットワーク型商店街を構築する。
- ③ 商品・出店計画 (MD) に関する方針を設定し、商店街全体の視点に立って、購入できる商品の幅、営業時間の幅などが広がるように営業を誘導する。
- ④ 地域の創業支援機能の導入を契機として、多様な主体の参画を促し、新しいアイデア・サービスを取り入れる。

## 商店街のゾーニング

- ビジターセンターから雄島の方角に向かう動線上に「商店街ランチ」を新設する。店舗建築を整備した上で新規出店を促す。
- 既存の商店街は西側 2/3 程度を存続し「本通り」として再整備を誘導する。東側 1/3 程度に位置する店舗は本通りの空き店舗やランチへの移転を促し、その用地は駐車場およびビジターセンターへの転換を想定する。具体的な事項は、今後の協議で検討を進める。
- 中広場やテラスに面した商店入口の設置も誘導することで、広場と通りの両側に開いた商店街空間を目指す。



## 商店街本通りの整備の方向性

- デザインガイドラインを策定し、国土交通省「街なみ環境整備事業」など地元の合意形成と事業推進のための補助制度を導入することで、外観・看板などの統一感ある整備を促す。雨対策の雨よけなども盛り込む。



- 商店街内の空き店舗は、リノベーションを随時実施し、新規出店者などへのテナント貸しができる仕組みをつくる。実施にあたっては、先行するモデル店舗の整備を検討。
- 商店街本通りの中の商店は、将来的な建物の老朽化や廃業などのタイミングに応じて適宜建物の取り壊しを進め、適正な店舗数を模索する。
- 訪問客が使えるストリートファニチャーを設置する。
- CO<sub>2</sub> 排出量削減、再生可能エネルギーの利用やエネルギー効率の向上などの施策を導入し、建築・運用が将来にわたって環境と共生する商店街の仕組みを創出する。

## 商店街ランチの整備の方向性

- 新しい東尋坊商店街をイメージづけ、回遊性が高まるような商店街構成とするために、商店街ランチをビジターセンターから雄島の方角へ降りていく新しい動線上に整備する。それぞれのランチには本通りからの一部店舗移転を促す。また、既存商店街との競合に配慮しつつ、新しい要素を持った新店舗も誘致する。

## 東尋坊商店街の運営体制

- まちづくり会社と戦略会議 (P19 参照) が、新しく出店または移転する商店の業態、規模、契約形態などの検討を行い、将来的な商店の移転や整備事業の実施を担う。
- また、東尋坊における人工物 (建築物・商店街・散策路など) のデザインガイドラインをまちづくり会社が主体となって策定・実施することで、環境と共生し、自然景観を引き立てるための指針とする。

ハード	<建築>	構造、ボリューム、開口部、外壁 (色、仕上げ、形態)、サイン、照明、植栽、広告物など
	<街路>	ストリートファニチャー、電線電柱、舗装 (仕様、色など)、手摺り、照明、サインなど
ソフト		トイレなどの共通貸出ルール、案内の仕方、除雪ルール、設置物など

# 宿泊施設



## 東尋坊が、周辺における宿泊施設の計画に期待すること

- 東尋坊の大自然を感じられ、環境と共生できるように配慮された計画であること。
- 私有地や公有地などの候補地を十分に検証し、官民の協力体制をもとにした互恵関係のある計画であること。
- 宿泊施設に滞在することによって東尋坊で終日過ごせる範囲における計画で、来訪者が、宿泊施設内部で完結せずに商店街や森林公園、アクティビティなどの周辺要素に触れられるよう、ソフト面を含めた連携が図られた計画であること。
- 宿泊や飲食、附帯の用途などと連携した人材育成・教育に関わる運営や、周辺環境と連携した運営にも配慮した計画であること。

## 配置・ゾーニング案の比較

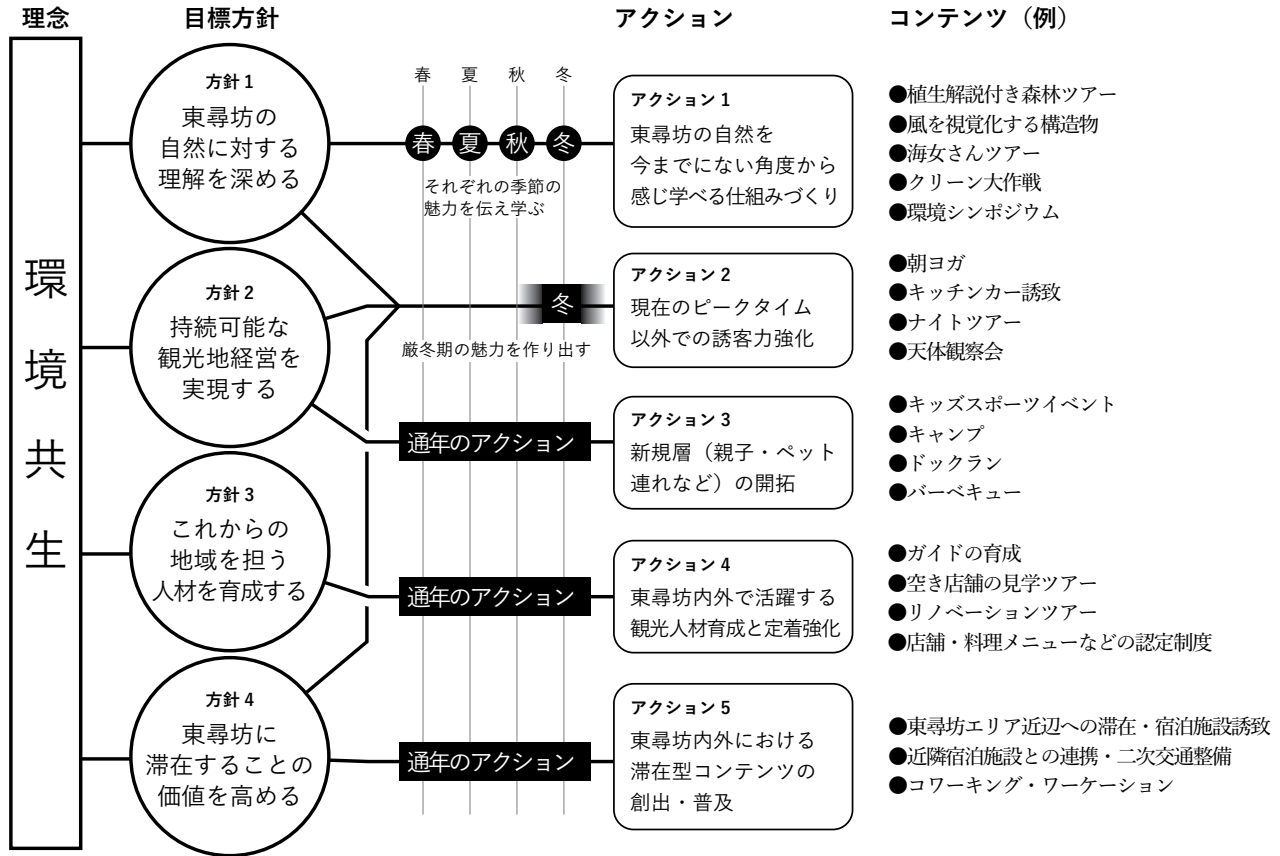
配置場所の想定	東尋坊中心地 (整備計画範囲外付近)	東尋坊範囲内 (海岸 8km 範囲、内陸範囲)
メリット	東尋坊の崖や自然に近接し、来訪者の滞在時間の充実によって、これまで知られていない夕方から早朝までの時間帯における東尋坊の新たな魅力の創出や経済効果が期待でき、宿泊施設のレストランや付加機能によって、新たな観光コンテンツが考えられる。	本整備計画と距離を置くことで事業者の主体性の自由度を高められ、幅広い範囲から事業者が参画できるので、東尋坊全域を見据えて、さまざまな可能性を含んだ計画とすることができる。
デメリット	民間事業者の場合、誘致する場所や建築のデザインとその規模のコントロールが難しい。また、海側の好立地の場所には保安林や商店などもあり、近隣住民や行政との調整が必要になるため、着工前のスケジュールが定まりにくい。	本計画との関連性が希薄になり、宿泊施設計画の意味付けが曖昧になる。またそのため、本計画の延長線上として、宿泊施設の建設候補地や運営方式などの基準を、広域に連携をとって定める必要がある。

## デザインの方向付けと今後の宿泊施設計画の位置付け

- 民設民営の場合は参画する事業者の主体性を尊重しながらも、地形や植生などの周辺環境に向き合いながら景観に配慮した外観を目指し、滞在者が東尋坊を感じられる全体計画となるよう、事業者と調整を行える環境を整える。また、外観・内観ともに、東尋坊に新たな価値基準を生み出す意匠を積極的に取り入れる。
- 今後、東尋坊再整備実施事業検討委員会 (仮)(p.19 参照) などの部会を通して、事業者へのサウンディングなどを行い、宿泊施設の計画における民間事業者の意見を集約し、適切な場所と方向性、また、行政との関わりについて、順次計画の基盤を検討していく。

# アクティビティ

## アクティビティ誘発事業の目標方針



### 人材育成

・福井県内外の専門家や事業者と連携し、アクティビティ事業を担う人材を発掘・育成する。

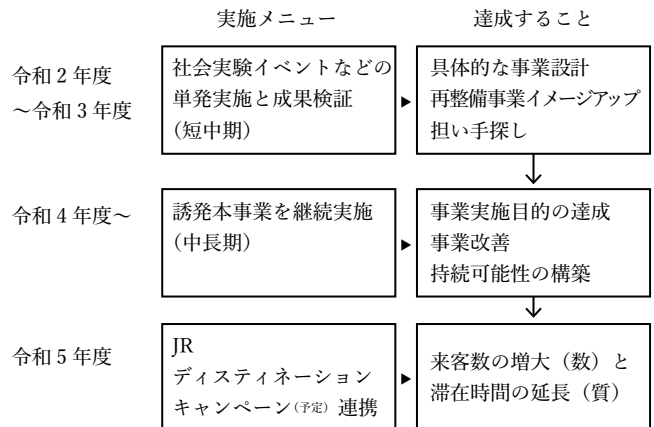
### アクティビティ誘発事業

・プレイベントを順次実施し、事業の実施と成果検証を進める。令和2年度は、観光庁などと連携してナイトタイムエコノミーの活用の実証実験を進める。  
・中長期的にはまちづくり会社が主体となり事業を継続実施していく。

### アクティビティに関わる施設整備の考え方

・各種アクティビティにも使えるよう、中広場、アクセス広場、臨時駐車場などに必要なインフラを整備する。

### アクティビティに関するタイムライン



中広場でのバーベキューなどのイメージ



岩場での仮設バーのイメージ



(参考) ミズベリング信濃川やすらぎ堤

アクティビティのイメージ  
(案1:ブリッジ有り)

②~④ 広場・森林公園の整備イメージ

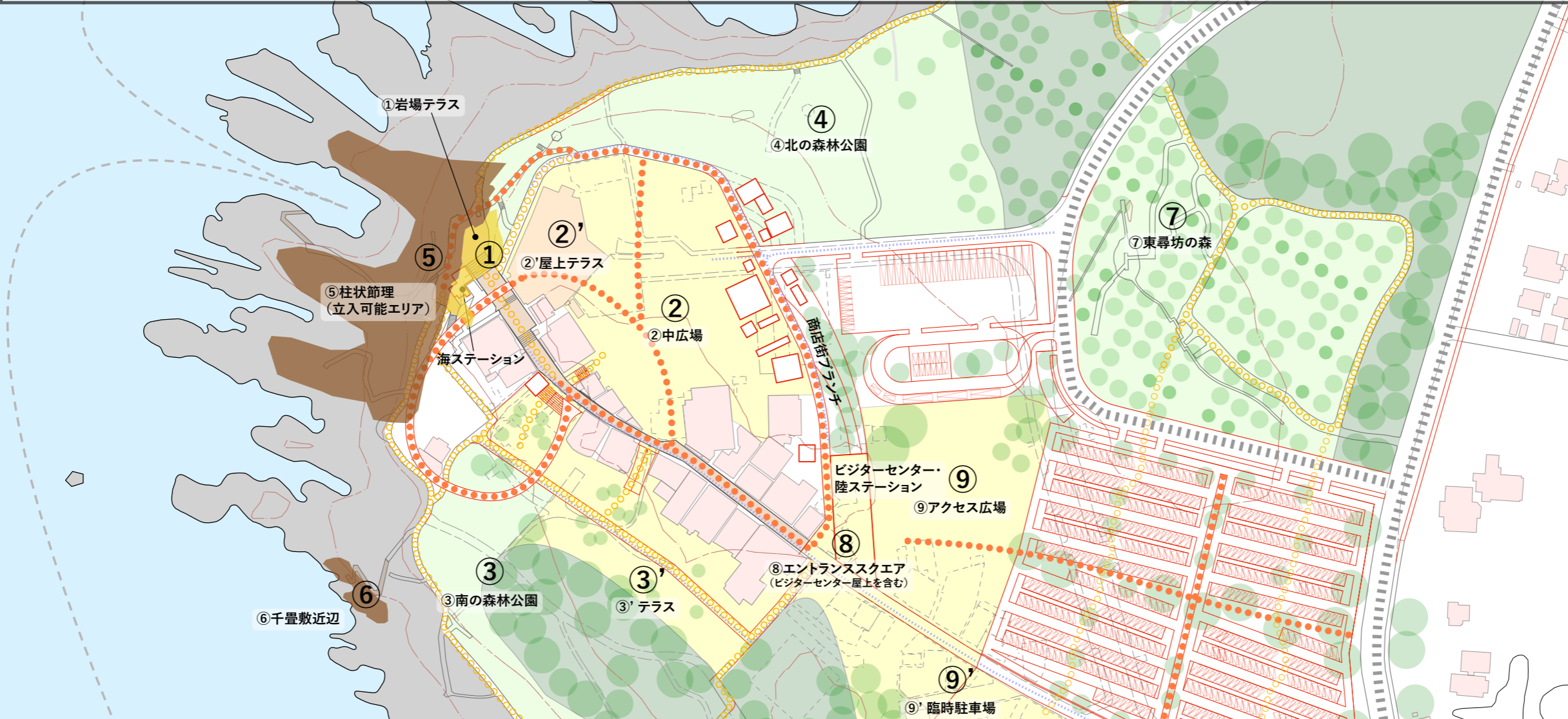
勾配がある場所のイメージ



フラットな場所の整備イメージ



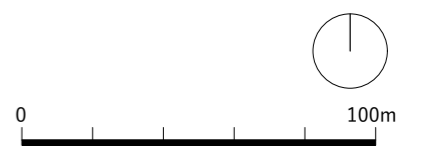
森林公園での地形を楽しむ場所の整備イメージ



アクティビティのイメージ

	①岩場テラス	②中広場	②'屋上テラス	③南の森林公園 ③'テラス	④北の森林公園	⑤柱状節理 (立入可能エリア)	⑥千畳敷近辺	⑦東尋坊の森	⑧エントランススクエア ⑨アクセス広場 ⑨'臨時駐車場	その他
春	写真撮影	ピクニック	キッチンカー・出店でお買い物	雄鳥を見る朝ヨガ会	散歩・散策	写真撮影	海女さんツアー	森の植生ツアー	キッチンカー・出店でお買い物	芸術祭などの開催・連携
夏	写真撮影	お外でランチ	キッチンカー・出店でお買い物	雄鳥を見る朝ヨガ会	寝転がる	散歩・散策	海女さんツアー	森の植生ツアー	キッチンカー・出店でお買い物	芸術祭などの開催・連携
秋	写真撮影	お外でランチ	キッチンカー・出店でお買い物	雄鳥を見る朝ヨガ会	寝転がる	散歩・散策	海女さんツアー	森の植生ツアー	キッチンカー・出店でお買い物	芸術祭などの開催・連携
冬	写真撮影	お外でランチ	キッチンカー・出店でお買い物	雄鳥を見る朝ヨガ会	寝転がる	散歩・散策	海女さんツアー	森の植生ツアー	キッチンカー・出店でお買い物	芸術祭などの開催・連携

赤背景は令和2年度からの実証実験実施を検討中



200714 東尋坊再整備計画  
アクティビティ イメージ S=1/2000  
案1:ブリッジ有り